

### Ⅲ. 重要な生態系の選定

#### 1. 選定結果

下記の各種資料や推薦などから、重要な生態系として次に示す延べ173カ所を抽出した。

次に、規模や現地の様子を考慮した結果、94の重要な小生態系と43の重要な中生態系を選定した。また、選定した重要な小生態系は、環境条件の類似性から下記の13タイプに類型化した。

重要な生態系の場所や対象、選定の根拠などについては表1、2、図5に示した。また、重要な生態系内で確認されている生物情報は、「重要な生態系における生物情報」として別添の図に整理した。

#### ■抽出した重要な生態系の出典（重複を含む）

|   |       |
|---|-------|
| ①平成11年度三田市自然環境調査業務報告書                   | 112カ所 |
| ②生態系レッドデータブック策定委員会委員推薦                  | 15カ所  |
| ③文献：兵庫の貴重な自然（兵庫県版レッドデータブック）             | 10カ所  |
| ④文献：三田十二景（三田市）                          | 16カ所  |
| ⑤文献：三田市の貴重な自然<br>（変わりゆく三田の自然・三田市環境基本計画） | 20カ所  |

#### ■重要な小生態系のタイプ

- |       |         |
|-------|---------|
| ①水田   | ⑧ 滝     |
| ②ため池  | ⑨孤立林    |
| ③草原   | ⑩林縁     |
| ④湿原   | ⑪社寺林    |
| ⑤湿性林  | ⑫岩角地    |
| ⑥河川   | ⑬バッドランド |
| ⑦河川岩上 |         |

## 2. 類型化された小生態系のタイプ

| 小生態系タイプ | 環境特性   | 特徴的な生きもの  | 生態系の現状など   | 代表的な場所の写真   |
|---------|--|---|--|---|
| 水田      | <p>河川の氾濫源の環境が、水田として置き換わった立地である。本来ならば、水深の浅い湿地状の立地は遷移の進行が速く、放置すれば数年で樹林となってしまうが、水田耕作により、広い面積が「湿地」として担保されている。三田を代表する景観であり、農業の営みがあっての環境である。</p>                       | <p>早春、生命の息吹を感じさせるカエルやオタマジャクシ、初夏の夜をにぎわす蛙の声、夏の暑い盛りに田んぼの脇を彩る水田雑草の数々、実った稲穂と共に秋を告げるアキアカネなどが生息する。そして、それらをエサとして捕りにやってくるサギやサシバなどが見られる。</p>                    | <p>農村地域を代表する景観として農作業によって、多様な生きものが息づく環境として維持されている。一方、ほ場整備に伴う乾田化や用排水路の整備などにより、メダカや、早春の水辺に産卵するアカガエル類などの生息できる湿地が減りつつある。</p>  |    |
| ため池     | <p>水田に引く水を貯めておくために作られた人工的な環境である。流入部が緩やかで、水際から水面にかけて植物が豊かなため池は、多くの生きものが暮らす環境となっている。このように、流入部の傾斜の程度や、水辺の植生の種類、池に影を落とす樹木の有無、水質の違いなど、生きものに影響を及ぼす多様な環境を持つのが特徴である。</p> | <p>水際の抽水植物（ガマ類など）をはじめ、浮葉植物（ヒツジグサなど）、沈水植物（クロモなど）、浮遊植物（タヌキモ類など）などが水際の立地環境を多様なものとしている。また、水生昆虫や魚類、マツカサガイなど、止水域や緩やかな水辺を好む生きものが、水深や水質、植物の環境に応じて棲み分けている。</p> | <p>重要なため池としては、山間部に位置するものが多く抽出されている。丘陵地や市街地周辺のため池は、取り壊しや宅地造成などにより数が減少している。また、堤体の改修による環境の変化、周辺の開発による水質悪化、外来魚のブラックバス、ブルーギルの放流・侵入により、多様な生きものが生息できるため池は減少している。</p>    |    |
| 草原      | <p>年に1～5回程度の草刈りを行うことで、樹木の侵入や定着を抑え、ススキ、チガヤ、シバなどイネ科植物が優占する草原である。草刈りの回数が少ないければ、草丈の高いススキが多く、回数が多ければチガヤやシバなど草丈の低い草原となる。定期的に刈り取られることで、地表にまで光が届き、多くの種類の草花が生える。</p>      | <p>オミナエシやキキョウなど秋の七草や、食用となるノビルやワラビ、薬用となるゲンショウコやセンブリなど、人との生活にかかわりのある草花が多い。草花の種類の豊富さに応じ、食草や蜜源を求めて多様な昆虫が生息する。</p>   | <p>草原の多くは藪へと遷移してしまっており、今も草原として維持されている畦やため池の法面も、改修によって少なくなる傾向にある。一方、山間部の畦畔やため池の法面は、途切れることなく草刈りが続けられてきたことにより、かつての草原の面影とともに草原に特有な動植物も今に伝えている。</p>                   |   |
| 湿原      | <p>表面近くに粘土層があり、貧栄養な湧水がわずかに斜面を流れる特殊な環境である。腐植がたまり、背の高い草や樹木が侵入・繁茂することで遷移が進行し、やがては消失する。イノシシのヌタ場として荒らされ、維持されることがある反面、人の踏みつけによってすぐになくなる繊細な環境である。</p>                   | <p>貧栄養な立地のため、昆虫を捕らえて養分を補給する食虫植物のミミカキグサ類、乱獲の対象となりやすいサギソウ、トキソウなどのラン科植物、ごく浅く水がたまった水辺環境に暮らすことで、捕食者となる大型の水生昆虫から身を守るハッチョウトンボやヒメタイコウチなどが生息している。</p>          | <p>個々の湿原は徐々に遷移が進み、やがて消失する。一方で、斜面の崩壊などにより別の場所で新たな湿原が生じる。湿原の生きもの多様性は、このようにして地域全体で保全されている。しかし、湿原の生じやすい丘陵地が大規模に開発されたことで、新たに湿原が生じる機会が激減し、自然状態での湿原の維持機構が崩れてしまっている。</p> |  |
| 湿生林     | <p>谷筋、川辺、ため池の周辺部のように、湿った環境に成立したハンノキやヤナギの林である。</p>  | <p>湿原やため池、水田と共通する生物が多く、コオイムシ、ドジョウ、モリアオガエル、カスミサンショウウオなどが生息している。ハンノキ林の梢では初夏に、金属光沢を持つゼフィルスと呼ばれるシジミチョウの一種であるミドリシジミが舞うこともある。</p>                           | <p>かつて湿生林は武庫川の氾濫原に成立していたが、その多くは水田に姿を変え、このような湿生林の成立できる環境は減少している。このまま放置されれば、遷移が進行し、長期的にはなくなっていく環境である。</p>  |  |
| 河川      | <p>流れが蛇行し、砂や泥のたまる河原が伴う、河川の中流部である。ツルヨシが水の中に伸びていたり、湿った立地にオギ原が成立するなど、水際の植物群落が発達する空間である。</p>   | <p>流れの速い上流部ではアカザ(魚)、カシカガエルなどが、緩やかに流れるところではメダカやカタハガイなどの魚や貝類が、ヨシ原やオギ原の広がる広い河原ではオオヨシキリなどの鳥類が見られ、河川の環境の違いに応じた生きものが生息している。</p>                             | <p>武庫川やそれに注ぐ各支流は、川幅が狭く流れも急であることから河川の中、上流的な環境があり、それぞれ環境に適応した生物が生息している。</p>  |  |

| 小生態系タイプ | 環境特性   | 特徴的な生きもの  | 生態系の現状など  | 代表的な場所の写真   |
|---------|--|---|---|---|
| 河川岩上    | 激しい流れが岩肌を削り、淵が連続する渓谷のような環境である。普段は乾燥しているが、増水時には激しい流れに見舞われる過酷な環境である。そのため岩が露出しており、特定の植物しか生育することができない。 | 岩の隙間に生育するサツキが5月頃に赤く美しい花を咲かせる。河川の中の生きものについては、現段階では情報不足である。                       | 自然状態の河岸が残され、特徴的な植物の生育する環境は、三田市内はもとより、県内でも少なくなっている。  |    |
| 滝       | 滝の飛沫を浴び、周りの岩壁は日中も乾くことが少ない。白い滝と青い滝壺の対比、瀑布の音などが、景勝地として親しまれている点に着目し、河川岩上とは区別している。                     | 生物情報は、現段階では不足している。  | 市内に分布する代表的な2カ所の滝は、いずれも名前が付けられ（大川瀬大滝、母子の尼滝）、景勝地として親しまれている。   |    |
| 孤立林     | ニュータウンなど大造成地の内部や周辺部に緑地として残された里山環境であり、宅地や道路に囲まれて孤立してしまっただけの林である。                                    | キンラン、ギンラン、エビネなど、里山で見られる希少な植物がわずかに生育している。また、ミズイロオナガシジミなどの蝶類が確認され、ヒメボタルがいる孤立林もある。 | ニュータウンの人々にとって、景観的にも、生きものに出来る場所としても、孤立林は重要な存在である。また、植物の種数は同じ面積の里山よりも少ないが、里山には自生していない街路樹や庭木などの種が孤立林の中に分布している。                     |    |
| 林縁      | 里山やハンノキ林などの林の縁で、半日陰の適湿地である。毎年、草刈りが行われることで、ツル植物やササの生い茂る藪にならずに、良好な状態で維持されている。                        | カザグルマが生育しており、カキラン、ミズギボウシなどが生育しているところもある。また、ヒメボタルがすむ林縁もある。                       | 生態系を保全するためのボランティア活動などの刈り取り管理により、守られているところもある。   |   |
| 社寺林     | 神社やお寺に見られる常緑広葉樹がうっそうと茂った林で、うろのある大木や、腐植が厚く堆積した土壌など、長い年月をかけて造られてきた環境である。                             | 照葉樹の大木の幹や枝に着生する希少なクモラン、カヤランなどが生育する。なお、社寺林特有の動物も多いと思われるが、現段階では情報不足である。           | 一度なくなると、元の状態に戻るまでに100年単位の年月を要する。また、照葉樹やスギの高木は、今もなお集落のランドマークとしての機能を持っている。アカマツ林やコナラ林の広がる里山と比べると、伐採の程度ははるかに低く、信仰の対象として保護されてきた面が強い。 |  |
| 岩角地     | 谷に面した山の斜面に崖状に露出した岩場の環境である。土壌はほとんど堆積していないが、半日陰で空中湿度が高い環境である。  | 希少なマメツタランやヒナランといった着生植物、小型のラン科植物が、苔むした岩に着生している。                                  | 谷筋の道路では、山側の切土の崖や、取り残された岩なども同様の環境となっている。   |  |
| バッドランド  | 過度の伐採により表土が流失してしまった尾根の裸地部や、岩峰や崖のように母岩が露出した環境である。現在では人の影響はほとんどないが、遷移の進行は遅く、放置しても長期間にわたり持続する。        | まばらに生育するアカマツの低木、乾燥が厳しくほとんど土壌もない劣悪な条件に適応した植物（ホソバキシモチ、ネズ、イシモチソウなど）やハナゴケ類が生育している。  | 見晴らしの良い場所に位置することが多く、明るく開けた景観は、三田市の自然環境の多様性を高める一つの要素でもある。一方、神戸層群に成立している場合には、現在も土壌が浸食されつつある。                                      |  |